

4 - 4 伊豆半島付近の地震活動 (1980年11月～1981年5月)

Seismic Activities in the Izu Peninsula and Its Vicinity

(November, 1980-May, 1981)

東京大学地震研究所

地震予知移動観測室 (地震移動班)

地震活動研究部門

Earthquake Research Institute, University of Tokyo

前報¹⁾以降, 本年5月中旬までの活動について報告する。

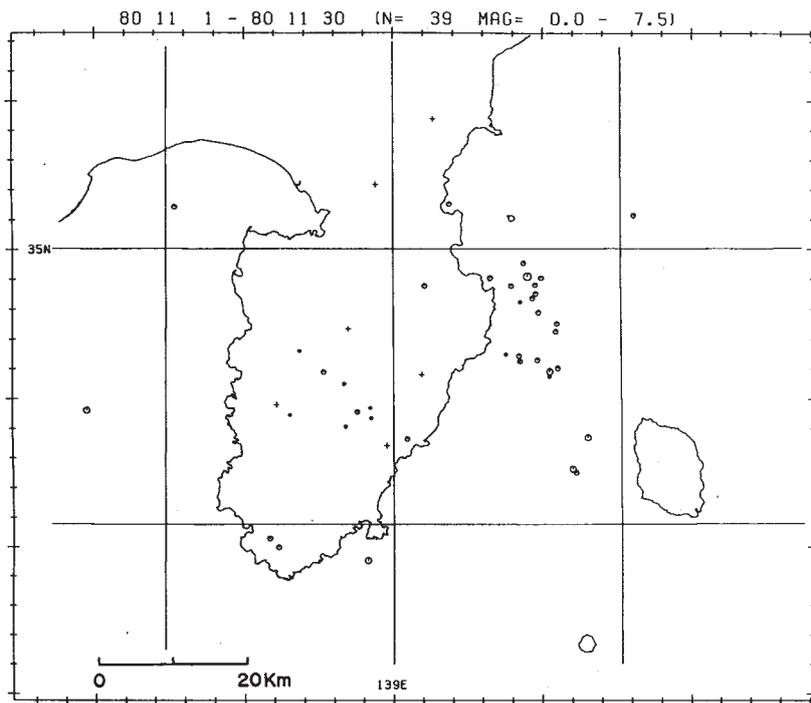
第1図～第7図は, 各月毎 (5月は19日まで) の震央分布図である。4月までの半年間には, 相変わらず1974年伊豆半島沖地震, 1978年伊豆大島近海地震の余震域と1980年伊豆半島東方沖の群発地震活動域に微弱な活動が続いているだけで顕著な活動はみられなかったが, これ迄活動のなかった北緯35°線の北側の浮橋付近 (2月5日02時49分) と大仁付近 (4月27日13時42分) に微小地震 (M1程度) が発生したことがやや注目される。

5月4日10時44分から5日21時10分間に真鶴岬の沖にM3～3.5程度の地震4個を含む群発地震が発生した (第7図)。第8図は, その発生経過を累積回数の変化で示した。全部で18個記録されたうちM2.5以上の地震8個に対して, $M \approx 1 \sim 2.4$ の地震は10個にすぎず ($M \approx 1$ までは確実に検知できる), 小さい地震の割合が著しく低い活動であった。最大地震は, 活動の終りに近い5日20時14分に発生し, $M = 3.6$ であった。深さは14～18Kmに求まった。この付近では, すくなくとも1975年以降, この程度の群発地震が発生したことはない。この活動の直前の5月4日08時18分と08時27分および活動中の5日05時23分に本年に入って活動のみられなかった網代と初島の間には $M = 2.4, 1.6$ および 1.8 の微小地震が発生したことは, 今回の群発地震活動が, やや広域的な地殻活動に伴ったものであったことを示唆するのかも知れない。

なお, 4月11日以降は, 地震研究所の伊豆半島の観測点の他に建築研究所国際地震工学部の湯河原観測点のデータも含めて処理されている。また真鶴岬沖の群発地震の震源決定には周辺のテレメータ点のデータも用いた。

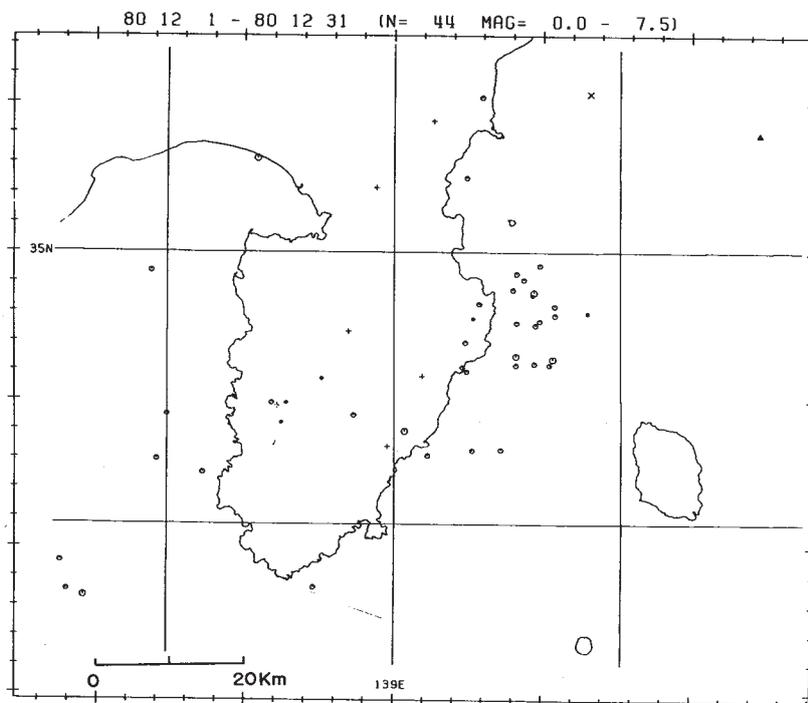
参 考 文 献

- 1) 東京大学地震研究所: 伊豆半島付近の地震活動 (1980年5月～10月), 連絡会報, 25 (1981), 162 - 168.



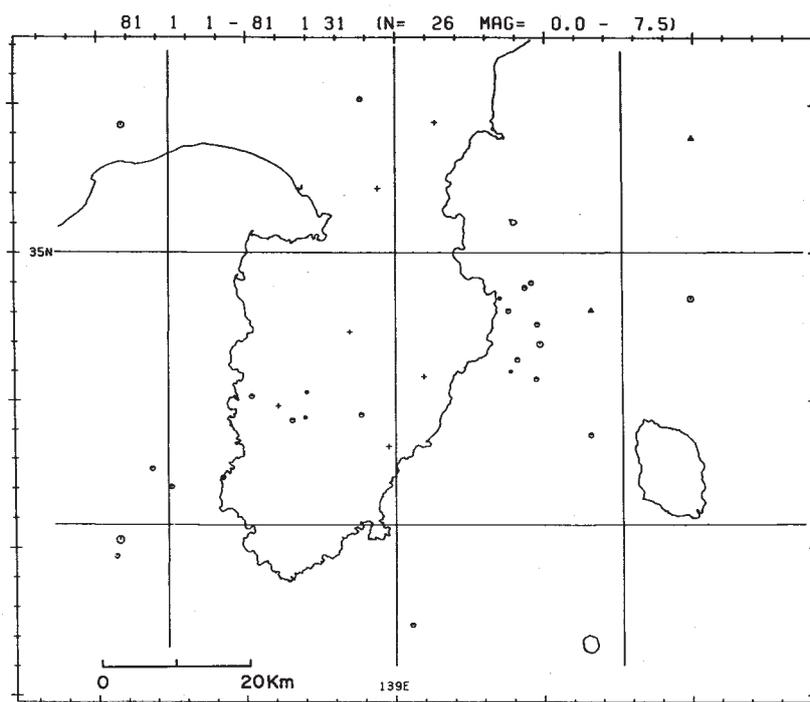
第1図 1980年11月の震央分布図

Fig. 1 Distribution of epicenters in November,1980.



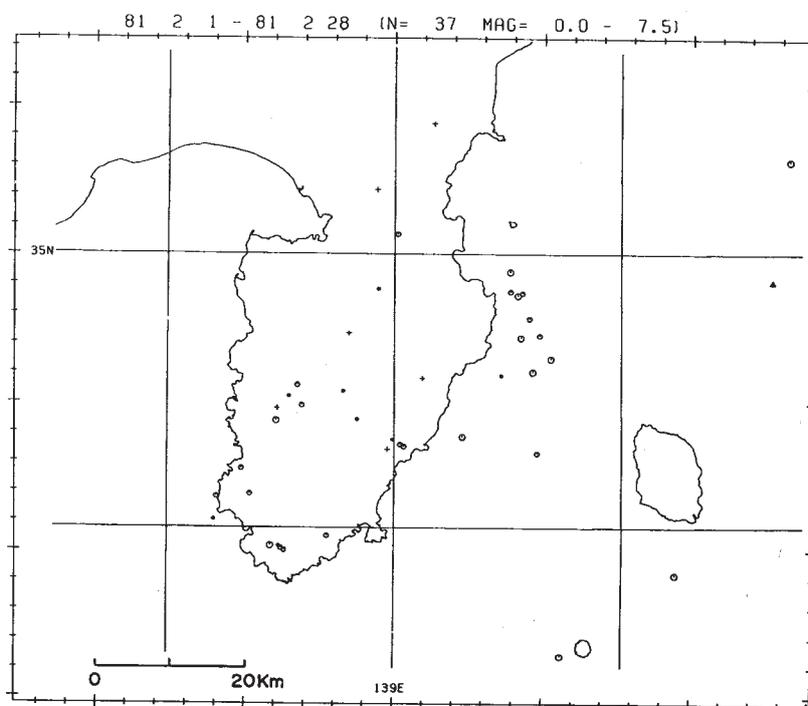
第2図 1980年12月の震央分布図

Fig. 2 Distribution of epicenters in December,1980.



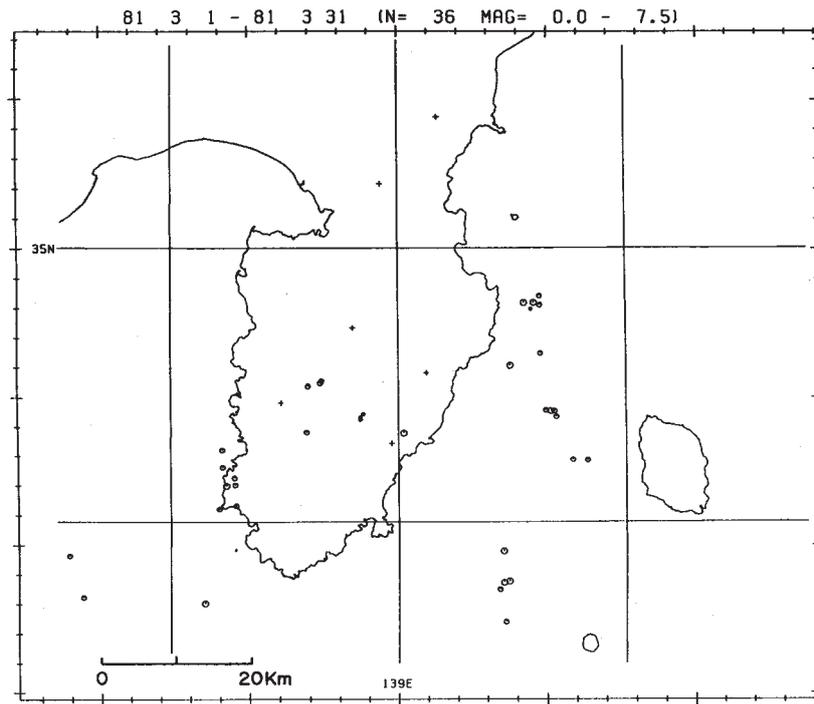
第3図 1981年1月の震央分布図

Fig. 3 Distribution of epicenters in January, 1981.



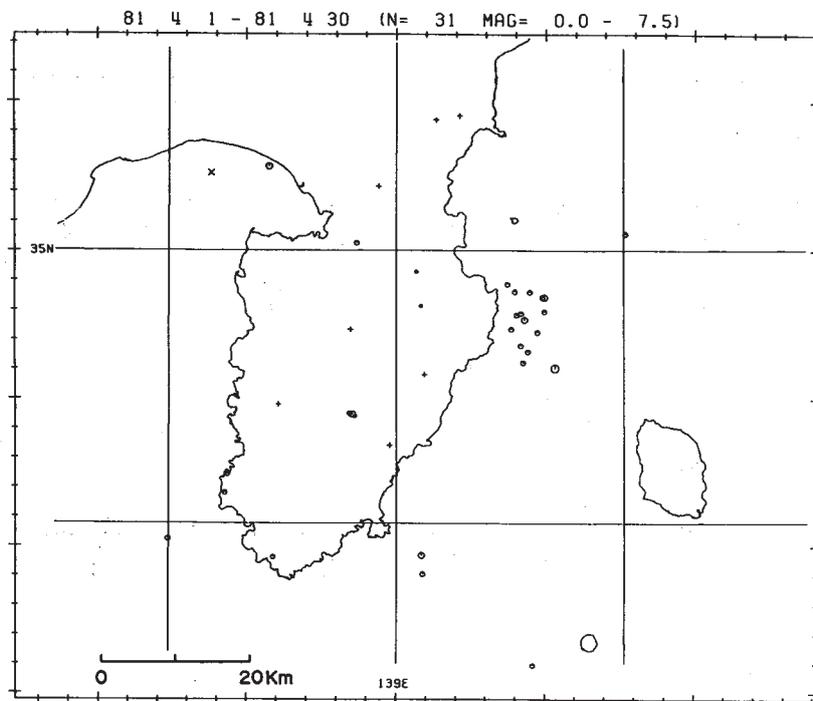
第4図 1981年2月の震央分布図

Fig. 4 Distribution of epicenters in February, 1981.



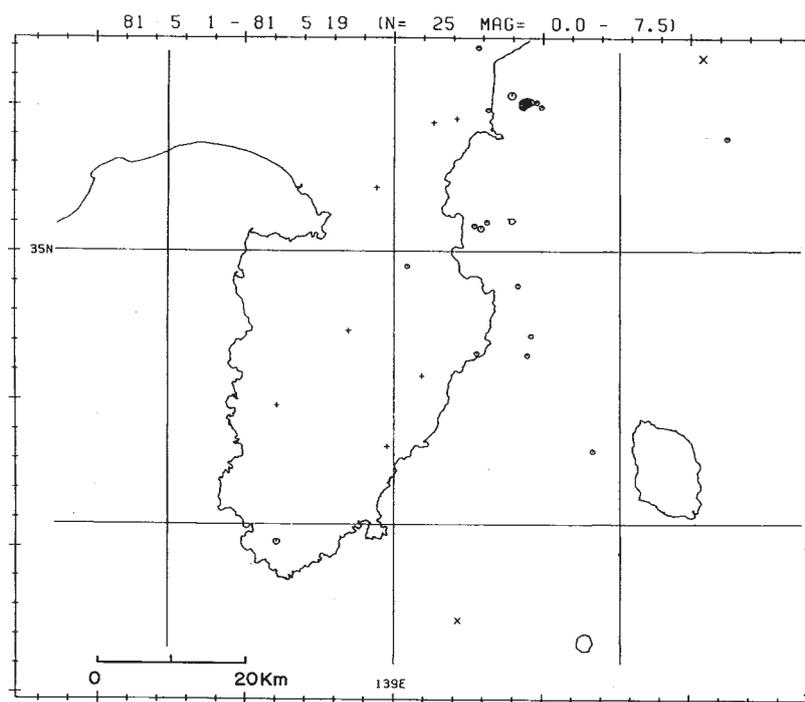
第5図 1981年3月の震央分布図

Fig. 5 Distribution of epicenters in March,1981.



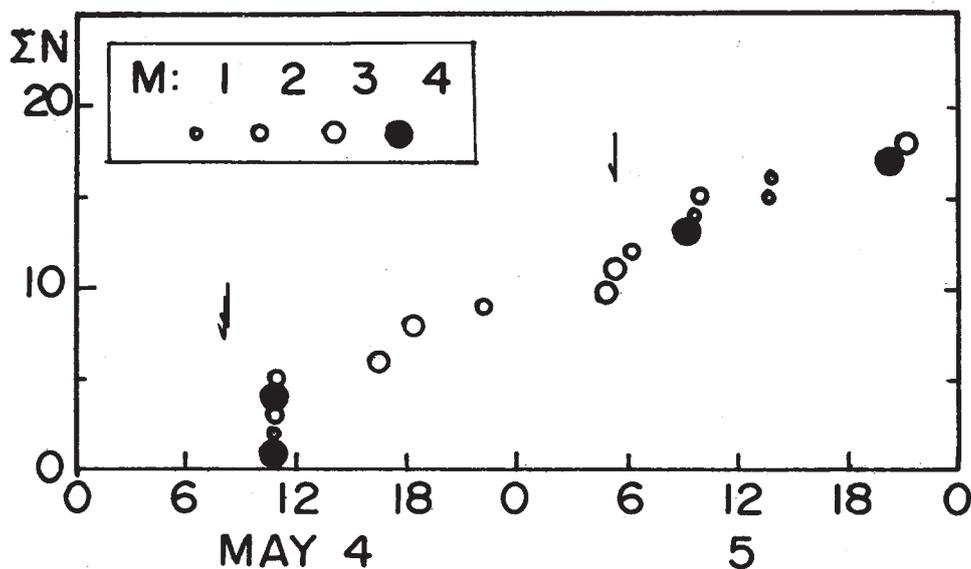
第6図 1981年4月の震央分布図

Fig. 6 Distribution of epicenters in April,1981.



第7図 1981年5月の震央分布図

Fig. 7 Distribution of epicenters in May,1981.



第8図 1981年5月4日～5日の真鶴岬沖の群発地震の累積回数。矢印は網代沖の地震の発生時刻を示す。

Fig. 8 Cumulative number of earthquakes off Manazuru-misaki on May 4 and 5, 1981. Arrow indicates the time of earthquake off Ajiro.